湯田　哲　議員

町政を問う
一般質問

本町の豊富な水資源による水力発電で、産業の活性化を

町長＝参入したい事業者には町としても側面的な支援を行う

問　ロシアのウクライナ侵略により、円安や物価高騰、石油、ガソリン、電気代等の大幅な値上がりは、私たちの生活はもちろん、電気を多く使う製造業の会社経営を大きく圧迫しています。南郷片貝にの「会津工場」のような電気を多く使う電気炉による鋳物製造の会社経営を圧迫していると予想します。電気を多く使う企業などが本町の豊富な水資源による「水力発電で自社で使う電気を自社で発電し使える」としたら、本町への企業誘致の大きな魅力であり、雇用の創出、産業の発展につながると考えますが。

町長　企業が事業活動を行う上で電気は必要不可欠なエネルギーであり、特に電力消費量の多い製造業においては昨今の電気料金の高騰は大きな負担になっていると認識しています。そのエネルギーを本町の地域特性をいかした発電方式で自給自足により補うことは、経費削減のみならず、持続可能な地域社会の構築にもつながるものと考えられます。しかし、水力発電を有効手段として企業誘致には、水資源の利用可能量の調査等を実施したうえで適地を選定しなければならず、規模にもよりますが初期投資費用が大きく、回収期間が長く、水利権の問題等といった課題も多いことから、水資源が豊富という理由だけで水力発電による企業誘致を推進していくことは、現在のところ考えていません。

問　2011年12月議会から「旧針生発電所を復活させては」などの水力発電など再生可能エネルギーについて繰り返し質問をしてきました。針生地区には　昭和6年から昭和 43年まで37年間、最大出力380kW年間2000MWの発電量の針生発電所がありました。東北電力の職員が家族で発電所敷地内の住宅に移住しその管理をしていました。その針生発電所で使われた導水路1200mの跡地が今でも存在します。その導水路を利用すれば、水力発電所建設で多くの予算を必要とする土木工事は最小限に抑えられ建設費を大幅に削減できます。有力な発電所候補だと考えますが。

左上写真：旧針生発電所（昭和44年頃）
左写真：今も残る1200mの導水路跡

七ヶ岳

だいくらスキー場

町長　過去において発電が行われていたことや導水路等の構造物が活用できるとすれば、発電事業の候補地としては可能性があるものと思います。しかし発電事業は、町が直接関与するということではなく、民間レベルで事業を推進することが望ましいと考えています。仮に、旧針生発電所の施設を活用して発電事業に参入したいとする事業者がいるのであれば、町としても側面的な支援を行うというスタンスです。

流域面積30平方キロメートル、七ヶ岳から黒岩湿原までの5つの沢を集め取水していた